

廣讚寺

ジャーナル

往生

「○○さんは長生きしたから大往生だ」という言葉をよく耳にします。生きた年月の長短で往生に違いが生じるのでしょうか。また、本人ならまだしも、他者がその往生の違いを言い当てることができるのでしょうか。

▼親鸞聖人においての往生観は、親鸞聖人自身の往生について語られるものと教えられます。つまり、自身自身にとっての往生が問題であって、他者の往生がどうであるかが問題ではないのです。浄土真宗に縁のあるものは、他者の往生は間違いなく浄土に往生したと案じ、そのことを通して自分自身の往生とは何か考えられると良いと思います。

第167号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052)411-5301

FAX (052)411-5341

携帯 090-1568-4623

〈E-mail〉

matsuoka@kosanji.or.jp



さるべき業縁のもよおせば、

いかなるふるまいもすべし(一)

田中智教

先日、自坊の同朋会にて『正信偈』を学んでいたなか、「邪見憍慢悪衆生」という一句に触れて、とある門徒さんから次のような感想が寄せられました。「親鸞聖人はなにかにつけて「悪」というけれど、なかなかピンとこないのです。自分で悪を自覚することによって阿弥陀さんに救われるという意味はわかるのだけれども、「悪」以外の言葉で理解できないのでしょうか」と。このような素直な感想を寄せてくださったことがありがたく、また、そのお気持ちも大変よくわかることです。親鸞聖人のお言葉を曲解せずに学び、そのお言葉を直接的に頂くことが基本的なことであり、とても大切なことです。しかしながら、そのお言葉を

理解するのは大変難しい。とりわけ、「悪」なんて言葉は、一般的な道徳心とは相反するもので、親から「よそ様に迷惑をかけるな」と躰けられ真面目に生活してきた人ならなおさら理解し難しい言葉であると思います。このことが気がかりで、朋友である藤井眞翔氏（長崎県・西光寺）に相談したところ、大変すばらしい言葉を紹介してくれました。

悪人というのは、どんな者が悪人であろうか。何か悪いことをする者を悪人と思っておりましたが、悪人とはそういう者ではない。自分の生活環境に対して、耐えていく力の弱い者が悪人なのである。周囲に対して、自分をおさええていく力の弱い者が、悪人なのである。環境が悪ければ、環境のために自分の心が動かされて、我が身を失いやすいものが悪人である。今までは、なにか兇悪無道なものを悪人と思っておりました

が、そんなものはおらぬのである。殺人罪を犯すと聞きますと、兇悪無慚な人間と思えますけれども、それは兇悪なことをしたに違いないけれども、心は最も弱いのである。これに気がついたのであります。

〔如来〕『蓬茨祖運選集』第十五卷

蓬茨先生は、悪人を「弱い者」と教えてくださいます。また、「周囲に対して、自分をおさえていく力の弱い者」とあります。まさに、よそ様に迷惑をかけてしまうような人のことでしょうかね。

そもそも、他に迷惑をかけずに生きてきた人など一人もいないのではないのでしょうか。親に、子に、友人知人に、近隣や会社に、環境、動物、地球に迷惑をかけて生きているのが私たちが人間の事実であると思います。すなわち、強い者など一人もおらず、人間はみな

弱い者なのです。その弱い者は、様々な縁や境遇によって法にも反する迷惑をかけてしまうことでしょうか。親鸞聖人のお言葉でいえば「さるべき業縁のもおせば、いかなるふるまいもすべし（『歎異抄』）」と。

その事実に向
け、自身を「悪」と見た親鸞聖人の生き方は、その悪人をこそ救済しようとして立ち上った阿弥陀仏に帰依した「南無阿弥陀仏」と称える生活であったと思うのです。

（続）



質問箱

「煩惱の身のまま救われると言いますが、救われると
いつでも私の悩みがなくなるとは思えません。救われ
るとはいつたいどんなことなのでしょうか」

『正信偈』でも馴染み深い言葉であるかと思いますが、
「不断煩惱得涅槃(分)」とあります。煩惱を断せずし
て涅槃の分限を得るとのことです。それは、ご質問の
通りで、悩みはなくならないのでしょうか。悩みがなく
ならないその事実を引き受けられるのが念仏の教えで
はないでしょうか。救われるのは、悩みを一切なくす
ことではなく、悩んだままに喜びを得ることができ
ることからこそ救いであると思えます。

行事予定

昨年十二月にはひよつとしたらそろそろ行事を再開
できるのでは、と思ったのですが、正月明けの現在、
各地でコロナ感染者が急増しております。海外で爆発
的に感染拡大するオミクロン株が日本でも始まろうと
しているのでしょうか。またしても先行きが見えない
状態になりました。また今年も様子を見ながら行事を
勤めていきたいと思えます。

二月二十八日(月) 十時 親鸞聖人ご命日のお勤め

